

女子大生の恋愛と結婚に対する意識調査

——理想の男性像と、男性への許容意識との関係——

三木 幹子

(2015年10月9日 受理)

Female College Students' Views on Love and Marriage
——A Relation between the Image of the Ideal Man and the Level Evaluated
as a Marriage Partner——

Motoko MIKI

Abstract

The aim of the present article is to make an examination of women's views on marriage. In order to discuss this problem I distributed questionnaires about love and marriage to female college students. The questionnaires show that from a viewpoint of love as well as marriage they regard men's character and men's sense of values as the most important thing. When a female college student thinks a man as a love, his appearance is the most essential for her. When she thinks a man as a marriage partner, on the other hand, his capacity for living is very important for her. What she mentions as the reason why she does not regard him as a love or a marriage partner is a physiological factor, a lack of sincerity, or an absence of human relations building ability. Only a few students regard men's appearance as the reason why female students dislike men. A comparison of a woman who attaches greater importance to her marriage partner's capacity for living with a woman who does not take her marriage partner's capacity for living much seriously makes clear the differences between two types of women.

1. はじめに

平成26年8月に内閣府¹⁾が調査した「女性の活躍推進に関する世論調査」によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成する人が44.6%（賛成：12.5%，どちらかといえば賛成：32.1%），反対が49.4%（反対：16.1%，どちらかといえば反対：33.3%）という結果であった。男女比較では、女性の場合、賛成が43.2%，反対が51.6%であるのに対し、男性は、賛成が46.5%，反対が46.5%であった。僅差ではあるが、女性の方が専

業主婦制度に対して批判的な意見を持っているといえる。ただし、前回平成24年の調査では、賛成が51.6%と過半数を占めていたことから、社会情勢や市場経済、生活環境の変化によって一般の人々の結婚観は影響を受けると考える。

また平成25年度の内閣府が行った意識調査報告書²⁾によると、39歳以下の未婚の男女に対して「将来結婚する意志があるか」の質問の回答では、「いずれは結婚したい」(45.1%)、「2～3年以内に結婚したい」(16.8%)、「すぐにも結婚したい」(14.6%)の合計が76.5%となっている。結婚したい理由として「家庭を持ちたい」「子どもが欲しい」などの理由の他に、女性は「経済的な安定を得たい」が29.9%を占めており、男性の割合13.8%と比べて2倍以上多いことがわかる。上記の結果と反対に、「将来結婚するつもりはない」と回答した人は23.5%存在している。「結婚について不安に感じていること」で多かった回答は、「適当な相手にめぐり合わない」(全体46.9%、男性43.4%、女性は51.7%)、「自分の時間を失いたくない」(全体34.3%、男性30.9%、女性38.8%)、「異性とうまく付き合えない・恋愛がめんどろ」(全体31.0%、男性29.3%、女性33.3%)、「結婚後の生活資金が足りないと思う」(全体33.6%、男性35.5%、女性31.0%)であった。このように、若者の結婚離れは、恋愛に対する拒否感および経済的な不安が根底にあるといえる。ただ、結婚に対する不安要因1位の「適当な相手にめぐり合わない」の「適当」がどの条件範囲までを示しているのか不明である。

著者はこれまで、女子高校生と女子大学生を対象に結婚・恋愛に関する意識調査およびジェンダー意識に関するアンケート調査を行い、両者の恋愛観と結婚観の違い、およびジェンダー意識が恋愛観に与える影響について考察を行った³⁾⁴⁾。また、10代から30代の男性を対象に、男性の恋愛観・結婚観と、彼らが持つジェンダー意識との関係について調査および分析を行い、日本の若者男女の結婚意識について、意識と実態の傾向とその要因について検討してきた⁵⁾。

そこで本研究では、独身女性が求める「適当な相手」の範囲を明らかにすることを目的とし、女子大学生を対象に、恋愛と結婚相手の条件、および理想の男性と男性の日常行動・性格・恋愛特性などに関する許容範囲についてアンケート調査を行った。

2. 調査方法

(1) 調査時期

2010年～2012年、および2014年

(2) 調査対象

被験者は広島女学院大学学生636名である。

(3) 調査内容

質問紙法によるアンケート調査を実施した。

1) 理想の男性の条件についての調査

恋人にしたい男性の条件、および結婚相手の条件について回答してもらった。条件の選択肢として19項目を設定し、恋人の条件、結婚相手の条件、それぞれについて、1位、2位、3位まで選んでもらった。条件（選択肢）は図1を参照。

2) 許容できない男性の条件についての調査

男性の絶対許容できない条件について回答してもらった。選択肢として22項目を設定し、最大5つまで選んでもらった。条件（選択肢）は図4を参照。

3) 男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲についての意識調査

男性の日常行動、性格、恋愛に対する態度などに関する質問を31項目設定した。評価にはSD法を用い、各項目について「許容できる」「やや許容できる」「どちらでもない」「あまり許容できない」「全く許容できない」の5段階で回答してもらった（評価に用いた質問項目は表1、表2参照）。

3. 結果・考察

(1) 理想の男性の条件についての調査

恋人の条件、結婚相手の条件の集計結果を図1～図3に示す。集計に際しては、1位に3点、2位に2点、3位に1点を与えて点数化し、合計点により比較を行った。

図1より、恋人の条件で点数が高かった項目は、「性格・価値観が合う」「優しい人」「顔・ルックス」「ユーモア・面白い」の順であった。学歴や経済力を選んだ被験者は少なかった。交際する上で、一緒にいて楽しいということが重視されているようだ。

次に、結婚相手の条件を見ると、1位は恋人の条件と同じく「性格・価値観が合う」であるが、2位には「経済力」が選ばれている。恋人の条件と比較すると20倍以上の点数である。一方、恋人の条件で上位であった「顔・ルックス」「ユーモア・面白い」は点数がかなり低くなっている。このことから、結婚相手には外見の好みや楽しさよりも、経済力やまじめさ、包容力といった、男性としての頼もしさや甲斐性が重視されているといえる。

次に、男性の理想条件の経年変化を見るために、各条件の点数について、全合計点に対する割合を算出し、2010年、2011年、2012年、2014年を並べて比較を行った（図2、図3）。

恋人の条件をみると、「性格・価値観が合う」は2011年が突出しており、次年度以降は割合が低くなっている。また「顔・ルックス」は年々割合が低下している。結婚相手の条件では、

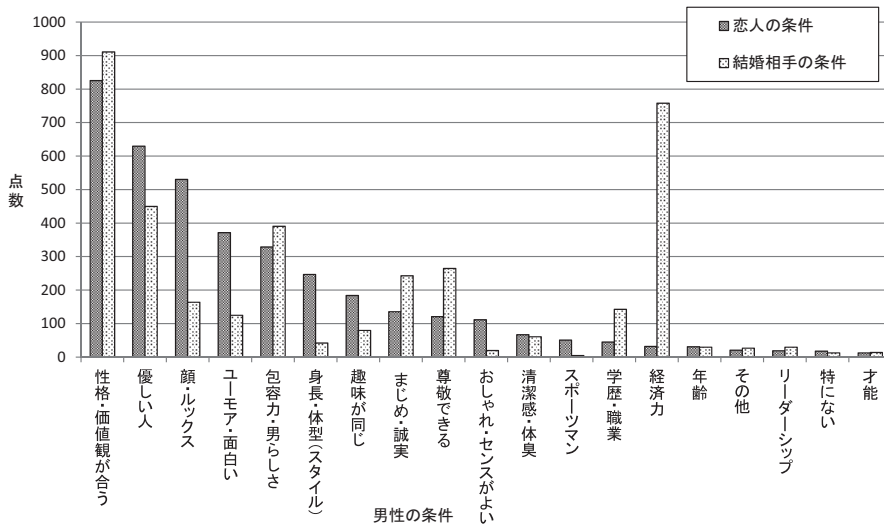


図1 恋人の条件, 結婚相手の条件

「経済力」は2011年に急に点数の割合が低くなっている。反対に、「包容力・男らしさ」「尊敬できる」は2011年が最も高い。2011年は東日本大震災をきっかけに、家族や国民の絆がクローズアップされた年である。そのことが、男性に対して、価値観の共有が求められたり、経済力よりも包容力や頼りがいが重視されたのではないだろうか。

(2) 許容できない男性の条件についての調査

前述した(1)の調査の集計では、理想の男性の条件について考察したが、世間の女性が理想を高く持つことは当然のことといえる。また、理想の男性に出会えないことが、恋人を作らない、結婚しない決定的な理由であるとも言い切れない。

2012年には理想の男性の条件として「三平男子」⁶⁾(注1)という言葉が流行したが、女性は男性にある程度妥協しようとする傾向がみられる。

そこで、女性が妥協できない(許容できない)男性の条件についての調査を行った。「これだけは絶対許せない男性の条件を5つまで選んでください」の回答を集計し、図4のグラフに示す。データは2010年～2014年までののべ回答数の合計で示している。

回答が多かった条件は「不潔」「浮気性」「定職に就いていない」「臭い」「マザコン」「ナルシスト」「空気が読めない=KY」の順であった。「不潔」「臭い」といった“生理的要因”がトップであった。2番目に「浮気性」が選ばれたことから、“誠実・真面目”が要求されているといえる。このため「女性にモテる」美男子は敬遠される。これは三平の「平凡な外見」に該当

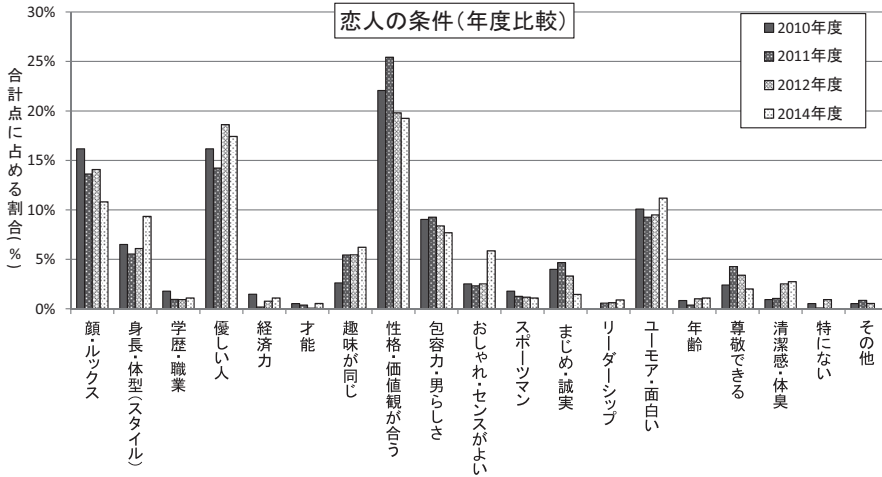


図2 恋人の条件(年度比較)

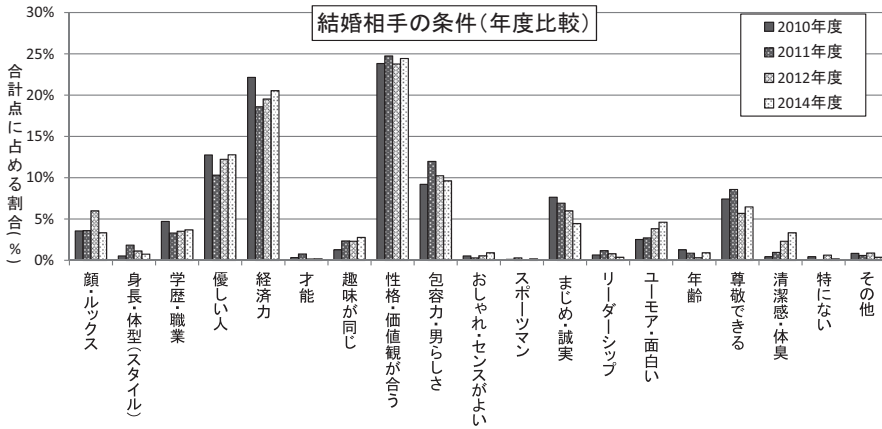


図3 結婚相手の条件(年度比較)

する。

“収入・経済力”の条件では、「定職に就いていない」「収入が少ない」「自分よりも学歴が低い」が選ばれている。しかし、「収入が少ない」「学歴が低い」を選択した学生は少なく、「定職に就いていない」が突出して多いことから、収入が多いことを期待しているわけではなく、安定した職に就いていることが重視されている。これは三平の「平均的な年収」に該当する。

次に、「マザコン」「ナルシスト」「空気が読めない(KY)」「ケチ」「性格が暗い」「友達が少ない」の項目が5位～10位まで並んでいるが、これらは“人間関係形成能力”に関する条件といえる。家庭や会社においてコミュニケーションをとることや、よりよい関係を築くことがで

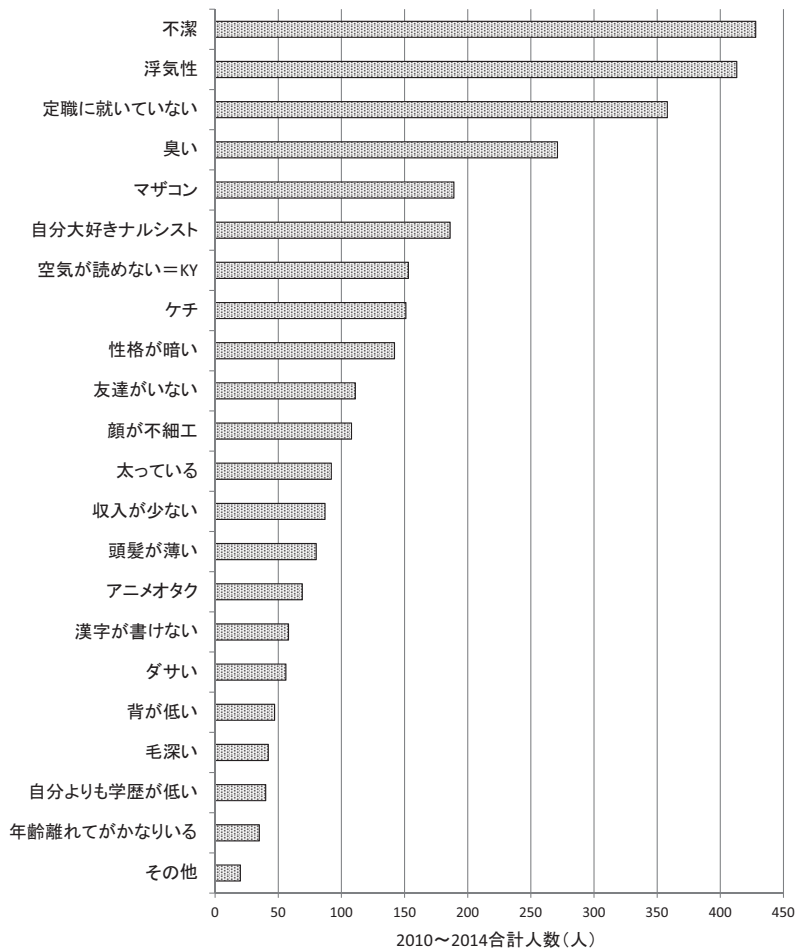


図4 許容できない男性の条件

きることを求めている。これは三平の「平穏な性格」に該当する。

また、反対に回答数が少なかった条件は、「顔が不細工」「太っている」「頭髪が薄い」「背が低い」「毛深い」「年齢がかなり離れている」などであった。これらは“外見（見た目）”に関する条件であるが、女性は余り重要視していないといえる。外見的要因は男性本人に責任がある事柄ではなく、誰もが体験する加齢による経年変化であるため、許容可能であると考えられる。

(3) 男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲についての意識調査

1) 単相関係数

男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲についての意識調査に用いた31個の質問項

目間における単相関係数を表1に示す。検定の結果、相関が有意であった組合せに**($p < 1\%$)または*($p < 5\%$)を記している。

「仕事や勉強より彼女のことを優先する男性」と他の項目との相関に注目すると、「自分の彼女が男友達や男の同僚と飲みに行っても干渉しない男性（マイナス＝干渉する男性）、「デートの時は彼女のバッグを持ってあげる男性」「記念日やイベント（クリスマス、バレンタイン）にすごくこだわる男性」「耳にピアスをしている男性」「会社で出世したいという希望はない男性」等との間に有意な相関がみられた。すなわち、男性には仕事よりも家庭や恋愛を大切にしたいと願っている女性は、仕事で成功して経済力を持つことよりも、平社員のままでよいので、プライベートが充実することを重視していることがわかる。

「妻には結婚後も働いて欲しい男性」と他の項目との相関に注目すると、「恋人を束縛したくないし、自分も束縛されたくない男性」「お金の管理がきちっとしている（細かい）男性」「将来のためにコツコツと貯金をしている（貯金が趣味の）男性」「自分の車を欲しいと思っていない男性」「休日は外出せずに、家でダラ～っとしていたい男性」「会社で出世したいという希望はない男性」等との間に有意な相関がみられた。結婚後も仕事を続けることを容認して欲しいと思っている女性は、夫には自分を干渉せずに放任して欲しいと思っており、金銭感覚がしっかりしていて、贅沢をしない男性を理想としている。また、夫に出世を望んでいないため、共働きか、あるいは夫が専業主夫であっても構わないと考えていると思われる。

「会社で出世したいという希望はない男性」と他の項目との相関に注目すると、「記念日やイベントにすごくこだわる男性（マイナス＝こだわらない男性）」「他人におごることが嫌い（ワリカン主義）な男性」「レストランでメニューをなかなか決められない男性」「毎日、同じ服を着ている男性」「地道に働くよりも、自分の夢を追いかけたい男性」「涙もろくて、感動すると人前でも号泣する男性」「友達から「お金を貸して」と頼まれると断れない男性」等との間に有意な相関がみられた。夫や恋人の出世を望んでいない女性は、男性から貢がれたり奉仕されることを望んでおらず、仕事ができるかどうかよりも、人間としての優しさや、夢を追いかける一途さに惹かれていると考える。

2) 因子分析

男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲について意識の基本因子を抽出するために、31個の質問項目を変数に、被験者636名の全評価を観測回数として因子分析を行った。評価値は「許容できる」から「許容できない」までを5～1点とした。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子負荷量および各被験者の因子得点を求めた。

因子分析を行った結果、表2に示すような固有値1.0以上の4因子が抽出された。因子負荷量より各因子の意味を検討した結果、第1因子は、「会社で出世したいという希望はない男性」

表2 因子分析（意識調査）

因子負荷量：回転後（バリマックス法）

変数名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
	優柔不断・ 草食系男子	おしゃれ 男子	非束縛	経済観念
・会社で出世したいという希望はない男性	0.5911	-0.0892	0.1652	0.0294
・自分の車を欲しいと思っていない男性	0.5102	-0.0780	0.1983	0.1435
・周囲から変わり者だと思われる男性	0.4961	0.0765	0.0512	0.0500
・レストランでメニューをなかなか決められない男性	0.4733	0.0124	-0.1137	0.1580
・休日は外出せずに、家でダラ～っとしていたい男性	0.4544	-0.0148	0.1499	0.0626
・涙もろくて、感動すると人前でも号泣する男性	0.4176	0.0752	-0.0608	0.0773
・新聞やニュースはあまり見ない男性	0.4022	0.0743	0.0034	-0.0631
・毎日、同じ服を着ている男性	0.3691	-0.0258	-0.0639	-0.0100
・占いや迷信を信じている男性	0.3671	0.1732	-0.1207	0.1170
・他人におごることが嫌い（ワリカン主義）な男性	0.3664	-0.1802	0.0766	0.3067
・友達から「お金を貸して」と頼まれると断れない男性	0.3537	0.1102	-0.0658	-0.1246
・香水やオードトワレを付けている男性	-0.0990	0.6884	-0.0710	0.0798
・持ち物や服のブランドにこだわる男性	-0.0966	0.6601	-0.0674	0.0982
・耳にピアスをしている男性	0.0780	0.5656	0.0388	-0.0590
・高級外車を乗り回したい男性	-0.0379	0.5231	-0.0851	0.0361
・毎日、髪の毛をセットするのに時間を掛ける男性	0.2010	0.4582	-0.0855	0.1441
・正直、自分をイケメン（いい男）だと思っている男性	0.3155	0.4162	0.0316	-0.0838
・女性用ファッションアイテムを自分のおしゃれに取り入れる男性	0.3210	0.3427	0.1510	0.0433
・地道に働くよりも、自分の夢を追いかけてみたい男性	0.2581	0.2707	-0.0123	-0.0126
・恋人を束縛したくないし、自分も束縛されたくない男性	0.0449	0.0301	0.5974	0.2592
・自分の彼女が男友達や男の同僚と飲みに行っても干渉しない男性	0.0491	0.0572	0.5457	0.2055
・別れた元カノ（恋人）と友達関係を続けられる男性	0.1543	0.1424	0.3531	0.1523
・1日に何度も彼女にメールや電話をしてしまう男性	0.0342	0.2023	-0.5927	0.0017
・記念日やイベント（クリスマス、バレンタイン）にすごくこだわる男性	-0.1065	0.2582	-0.4652	0.2207
・彼女の携帯をチェックしたがる男性	0.0950	-0.1007	-0.4180	0.0138
・仕事や勉強より彼女のことを優先する男性	0.0888	0.1002	-0.3140	0.0709
・デートの時は彼女のバッグを持ってあげる男性	-0.0272	0.0700	-0.3023	0.1536
・お金の管理がきちっとしている（細かい）男性	0.0898	0.0198	0.0048	0.5866
・将来のためにコツコツと貯金をしている（貯金が趣味の）男性	0.0077	0.0110	-0.0285	0.5793
・几帳面できれいな好き。机や部屋はきちっと整理整頓している男性	0.0362	0.1609	0.0404	0.4376
・妻には結婚後も働いていて欲しい男性	0.1093	-0.0159	0.2939	0.2982
固有値	2.5690	2.3675	1.9874	1.4070
寄与率（%）	8.29	7.64	6.41	4.54
累積寄与率（%）	8.29	15.92	22.33	26.87

「自分の車を欲しいと思っていない男性」「周囲から変わり者だと思われている男性」「レストランでメニューをなかなか決められない男性」「休日は外出せずに、家でダラ～っとしたい男性」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“優柔不断・草食系男子の因子”と解釈した。

第2因子は、「香水やオードトワレを付けている男性」「持ち物や服のブランドにこだわる男性」「高級外車を乗り回したい男性」「毎日、髪の毛をセットするのに時間を掛ける男性」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“おしゃれ男子の因子”と解釈した。

第3因子は、「恋人を束縛したくないし、自分も束縛されたくない男性」「自分の彼女が男友達や男の同僚と飲みに行っても干渉しない男性」「1日に何度も彼女にメールや電話をしてしまう男性（マイナス＝メールや電話をしない男性）」「記念日やイベント（クリスマス、バレンタイン）にすごくこだわる男性（マイナス＝こだわらない男性）」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“非束縛の因子”と解釈した。

第4因子は、「お金の管理がきちっとしている（細かい）男性」「将来のためにコツコツと貯金をしている（貯金が趣味の）男性」「几帳面できれい好き。机や部屋はきちっと整理整頓している男性」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“経済観念の因子”と解釈した。

よって、女子大生の男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲の意識は、これらの4因子が基本となっているといえる。

3) 因子得点の分布

男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲意識の各因子について因子得点を算出し、全被験者の因子得点を分布させたグラフを図5、図6に示す（注2）。

図5は、よこ軸が第1因子“優柔不断・草食系男子の因子”，たて軸が第2因子“おしゃれ男子の因子”を示している。また、「理想の男性の条件についての調査」の結婚相手の条件の1位に「経済力」を選んだ被験者と、1位～3位までに「経済力」を選ばなかった被験者の2つのカテゴリーに分類し、記号を変えて表示している。

各因子のプラスとマイナスの組合せにより、被験者をa、b、c、dの4領域に分類することができる。

第1因子がプラス、第2因子がプラスのa領域に分布している被験者は、優柔不断で出世意欲が低い男性を許容でき、また身だしなみやおしゃれに気を遣う男性を好んでいる。したがって、この領域を「草食&装飾男子」と定義する。a領域には結婚相手の条件に「経済力」を選ばなかった被験者の分布が多く見られる。彼女らは男性に決断力や仕事の能力を求めているため、経済力が結婚の条件には入っていない。ただし、おしゃれでかっこいい男性を求めており、ルックス至上主義であるといえる。

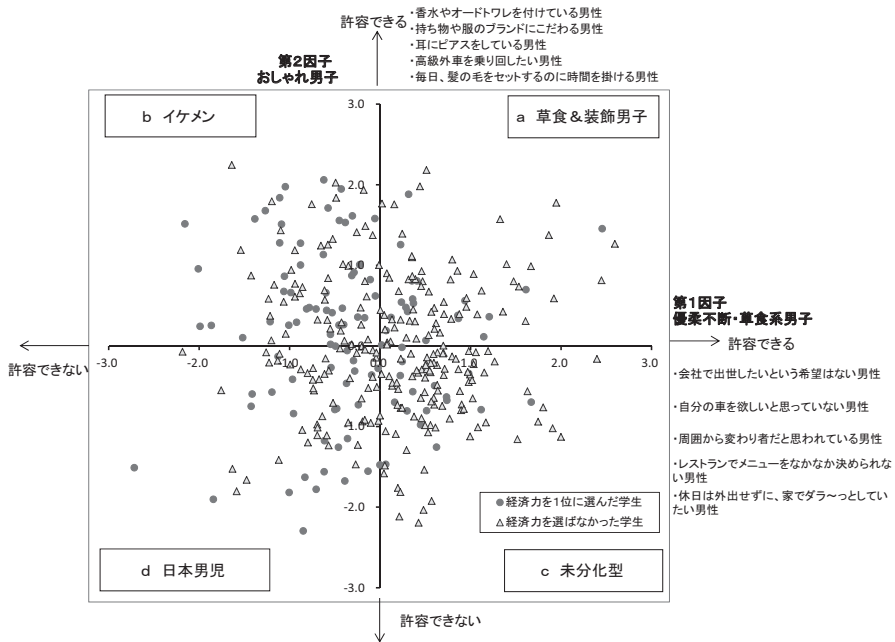


図5 因子得点の分布 (第1因子と第2因子)
 ～結婚相手の条件1位に「経済力」を選んだ学生と、選ばなかった学生との比較～

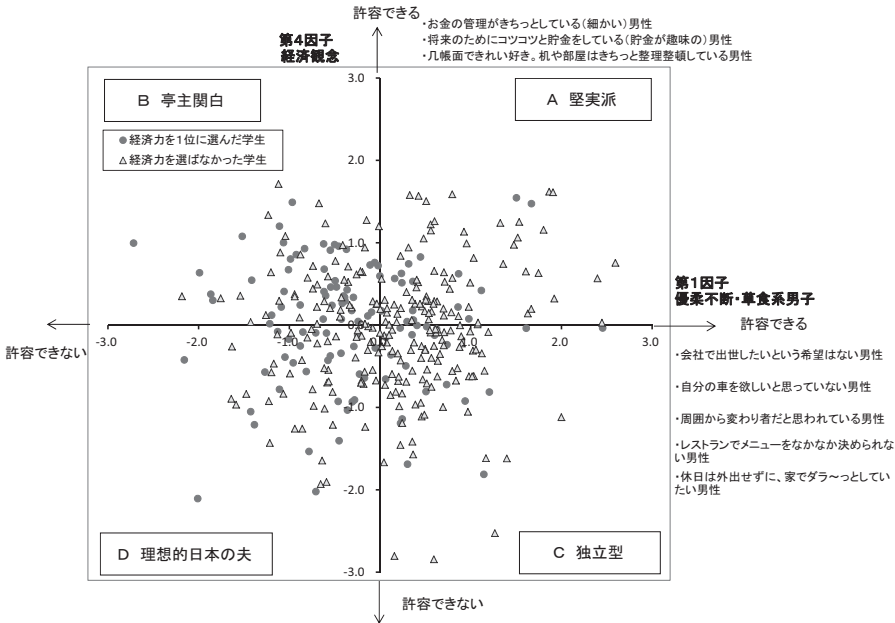


図6 因子得点の分布 (第1因子と第4因子)
 ～結婚相手の条件1位に「経済力」を選んだ学生と、選ばなかった学生との比較～

第1因子がマイナス、第2因子がプラスのb領域に分布している被験者は、優柔不断で出世欲のない男性を許容しておらず（＝決断力のある肉食系男子を好む）、且つおしゃれな男子を好む傾向が強い。この領域を「イケメン」と定義する。b領域には結婚相手の条件の1位に「経済力」を選択した学生が多く分布している。男性の経済力を重視する女性は、仕事ができるエリート男性を好むが、さらに外見が洗練されてスタイリッシュであることも求めている。かな理想が高い（高望み）といえる。その結果、男性に妥協することができないため、「適当な相手にめぐり合わない」女性になりうる可能性が高い。

第1因子がプラス、第2因子がマイナスのc領域に分布している被験者は、出世意欲が無く決断力に乏しい男性を許容しており、また男性におしゃれであることも求めている。c領域には結婚相手の条件に「経済力」を選ばなかった被験者の分布が多い。彼女たちは男性に経済力も頼りがいも外見の良さも望んでいないことから、結婚に対して現実的なことと捉えていないのではないかと考える。したがってこの領域を「未分化型」と定義する。

第1因子がマイナス、第2因子がマイナスのd領域に分布している被験者は、優柔不断で仕事に打ち込まない男性を許容しておらず、またおしゃれであることを求めている。すなわち、仕事ができる肉食系で、おしゃれに無頓着な男性を好む傾向がある。この領域を「日本男児」と定義する。d領域には、結婚相手の条件に「経済力」を選んだ学生と選ばなかった学生の両方が分布している。見た目よりも内面の男らしさを重視する女性は、現代においても一定数存在するようだ。

図6は、よこ軸が第1因子“優柔不断・草食系男子の因子”，たて軸が第4因子“経済観念の因子”を示している。また、結婚相手の条件の1位に「経済力」を選んだ被験者と選ばなかった被験者の記号を変えて表示している。

各因子のプラスとマイナスの組合せにより、被験者をA、B、C、Dの4領域に分類することができる。

第1因子がプラス、第2因子がプラスのA領域に分布している被験者は、出世意欲のない優柔不断な男性を許容でき、几帳面で経済観念がしっかりした男性を好む傾向が強い。この領域には、結婚相手の条件に「経済力」を選ばなかった被験者の分布が多く見られる。すなわち収入が少なくても無駄遣いせず、地道に将来設計をすればよいという考え方である。この領域を「堅実派」と定義する。

第1因子がマイナス、第2因子がプラスのB領域に分布している被験者は、出世意欲がなく優柔不断な男性を許容せず、また経済観念がしっかりした男性を好む。すなわち、決断力、仕事的能力、金銭感覚が備わっている男性を求めていることから、この領域を「亭主関白」と定義する。B領域には、婚相手の条件の1位に「経済力」を選択した学生が多く分布している。

彼女たちは、家族や家計を男性にリードしてもらいたいと思っているようだ。また専業主婦志向が強いと予想される。

第1因子がプラス、第2因子がマイナスのC領域に分布している被験者は、優柔不断で出世意欲のない男性を許容するが、お金の細かく神経質な男性を好まない傾向がある。この領域には、結婚相手の条件に「経済力」を選ばなかった被験者が多く分布している。すなわち、経済的に男性を頼りたいと思っておらず、また、節約してまで貯金をしようとも考えていない。要するに彼女たちはお互い自立したパートナー関係を望んでおり、共働き家族欲求が強いといえる。C領域を「独立型」と定義する。

第1因子がマイナス、第2因子がマイナスのD領域に分布している被験者は、優柔不断で仕事に打ち込まない男性を許容しておらず、またお金の管理に細かい男性にも拒否反応を示している。すなわち、仕事に打ち込む頼りがいのある男性を好むが、家庭経営は自分に任せて欲しいと願っている。したがって、D領域を「理想的な日本の夫」と定義する。この領域には、結婚相手の条件に「経済力」を選んだ学生と選ばなかった学生の両方が分布している。彼女たちは、夫は仕事を頑張り、家計は妻に一切を任せるといった、日本の世帯ではごく一般的な家族関係を望んでいるようだ。

4. ま と め

女子大生を対象に、理想の男性の条件、許容できない男性の条件、および男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲についての意識調査に関するアンケート調査を行い、因子分析により考察した結果、以下のことが明らかになった。

- (1) 恋人および結婚相手の条件として、「性格・価値観が合う」は共通して1位であったが、恋人の条件で重視された外見や楽しさに関する要因は、結婚相手の条件では軽視されていた。また、「経済力」は結婚相手の条件の方では突出して増加しており、現在においても女性が男性に経済力を求める傾向が強いことが分かった。
- (2) 許容できない男性の条件について集計を行った結果、「生理的要因」「誠実さの要因」「(安定した)経済力の要因」「人間関係形成能力」に関する条件が上位に挙がった。反対に「外見的要因」については、許容できないと回答した被験者は少なかった。
- (3) 「男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲についての意識調査」に用いた質問項目間の単相関係数を検討した結果、男性には仕事よりも家庭や恋愛を大切にしたいと願っている女性は、経済力よりもプライベートの充実を重視していることがわかった。また、結婚後も仕事を続けることを容認して欲しいと思っている女性は、夫の出世を望んでおらず、

共働きか、あるいは配偶者が専業主夫になることを要望していると思われる。

- (4) 「男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲について意識」について因子分析を行った結果、「優柔不断・草食系男子の因子」「おしゃれ男子の因子」「非束縛の因子」「経済観念の因子」の4因子が抽出された。
- (5) 「男性の日常行動・性格・恋愛特性に対する許容範囲について意識」について、因子得点により、被験者の位置関係を考察した結果、以下のことが明らかとなった。
- ・結婚相手の条件として経済力を重視する女性は、仕事ができ決断力のある肉食系男子を好んでおり、反対に結婚相手に経済力を求めない女性は、優柔不断で仕事に意欲を持たない草食系男子を許容する傾向がみられた。
 - ・男性に経済力を求める女性の場合、外見的要素（おしゃれ）も求めており、男性に対する理想が高い傾向が見られる。
 - ・結婚相手の条件に経済力を重視しない女性は、男性のルックスを重視する傾向があり、また経済観念については堅実的な考え方を持っていることが分かった。
 - ・結婚相手の条件に経済力を求めない女性は、出世意欲が無く、且つ経済観念がない男性を許容しており、経済的に独立したパートナー関係を前提として男性を評価していると思われる。
 - ・日本の家庭で一般的に多く見られる、家庭を妻に任せる仕事人間的な男性を支持する学生は現代でも一定の割合が存在しており、その層の女性が男性に経済力を求めるか否かは関連性が見られなかった。

最後に、アンケートにご協力いただいた皆様へお礼を申し上げます。

注

注1：三平男子⁶⁾……女性たちが結婚相手に対して望む条件「平均的な年収」「平凡な外見」「平穏な性格」

注2：第3因子“非束縛の因子”は、結婚相手の条件に「経済力を」選ぶか選ばないかの違いで、被験者間の顕著な差がみられなかったため、今回の考察には用いていない。

引用文献

- 1) 内閣府、「女性の活躍推進に関する世論調査」
<http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-joseikatsuyaku/1.html>（2015年9月28日閲覧）
- 2) 内閣府、平成25年度「少子化社会対策大綱の見直しに向けた意識調査」報告書
http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/h25/taiko/2_1_1.html（2015年9月28日閲覧）

- 3) 三木幹子, 植木由香, 「女子大学生と女子高校生の恋愛観・結婚観とジェンダー意識との関係」, 広島女学院大学論集, 第60集, pp. 95-109, 2010
- 4) 三木幹子, 植木由香, 「女性と男性の恋愛観・結婚観に関する意識比較」, 広島女学院大学論集, 第61集, pp. 95-112, 2011
- 5) 三木幹子, 「男性の恋愛観とジェンダー意識との関係」, 広島女学院大学人間生活学部紀要, 第2号, pp. 1-12, 2015年3月
- 6) マイナビニュース, 「結婚に「平均」を求めるオンナたち」
<http://news.mynavi.jp/column/average/001/> (2015年9月29日閲覧)

参 考 文 献

- 山田昌弘, 白河桃子, 『「婚活」時代』, デイスクヴァー・トゥエンティワン, 2008年
森岡正博, 『草食系男子の恋愛学』, メディアファクトリー, 2008年